3 外出先で情報を入手する方法を知っていますか? ～携帯・スマホの活用～

外出先で被災した時は、携帯電話やスマートフォンを活用して情報収集を行える可能性もあります。緊急時には周囲の人と協力して使い方を工夫してみましょう。皆が一斉に使用するよりも、1人が情報を取得して、周りに伝えながら、機器の使用をリレーするとバッテリーの有効利用になります。また、携帯電話の操作が苦手な人は、自分が困っていることを周囲の人に伝え、情報提供してもらいましょう。災害時には、避難者同士の情報共有や助け合いが重要です。

●手に入れたい情報　余震・津波・現在地の標高・火災・交通機関の運行状況など

■最新情報の取得に有効なアプリ

●インターネットラジオ

radiko.jp　　らじる☆らじる

●ワンセグ

放送波を受信できる端末は、電波の混雑に関係なくワンセグ放送が見られます。

■目的地までの距離・ルート確認用アプリ　～GPS活用～

google マップ

そのほか、東日本大震災では、twitter、facebook、mixiなどSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）が有効な情報伝達手段として注目されました。携帯・スマホの電池切れに備えて、普段から予備バッテリーや手動対応の充電器をカバンに入れておきましょう。

備える ポイント!

みんなが一斉に電話やインターネットを使用し、回線が混み合って、電話がつながりにくくなると、命にかかわる救助の要請もできなくなります。緊急車両に道を譲る気持ちと同じように、なるべく電話の使用は控え、災害時にサービスが提供される「災害用伝言ダイヤル171」や「災害用伝言板」「災害用音声お届けサービス」等の利用を心がけましょう。

〈災害用音声お届けサービスの利用方法はこちら〉

- docomo　http://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/disaster_voice/
- au　http://www.au.kddi.com/notice/onsei_otodoke/
- softbank　http://mb.softbank.jp/mb/service/dengon/about/voice/

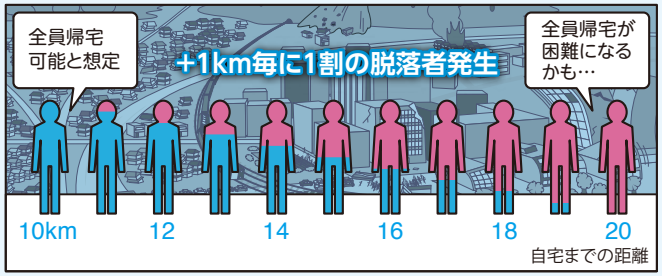
そのほか、家族の集合場所を災害別に事前に決めたり、お子さんのいる家庭では学校・保育園・幼稚園等と、引き取り方法について事前に確認したりしておきましょう。

4 徒歩で帰宅する際の心構えはありますか?

外出先等で災害に遭遇し、自宅までが遠距離で帰宅を断念した人や、遠距離を徒歩で帰宅しようとする人を「帰宅困難者」と呼んでいます。

■徒歩で帰宅する場合の「帰宅可能」と「帰宅困難」の目安

- ●帰宅距離10Km以内の人は全員「帰宅可能」
- ●帰宅距離10Km～20Kmでは、個人の運動能力の差から、1Km長くなるごとに「帰宅可能」者が1割減
- ●帰宅距離20Km以上の人は全員「帰宅困難」

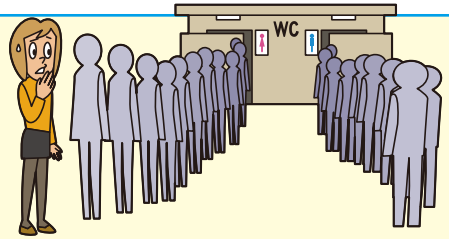


●「愛知県 東海地震・東南海地震被害予測調査の帰宅困難設定」より

徒歩で帰宅するかどうかの判断は、自分の体力と経路上の危険箇所や道路規制の情報なども考慮しましょう。また、状況は刻々と変わります。移動中も随時、最新の情報を確認してください。

備える ポイント!

帰宅する際に重要なのは水の補給とトイレの場所を決めておくことです。人は平均して２～３時間ごとに尿意をもよおします。どこのトイレでも長蛇の列になっていることを覚悟し、早めにトイレに立ち寄りましょう。



また、１日で歩ける時間は限られます。冬では午後３時までに、夏では午後５時までに歩くのをやめ、屋根があり管理者がいる場所で寝られる施設を探しましょう。夜間の一人歩きは絶対にやめましょう。